

ひと



浦和レッズの女子チーム・レッズレディースのトップパートナー企業・プラスグループ5人目の社員選手として、今年新卒で入社しました」と笑う。

て3ヵ月あまり。コミュニケーション部広報課の一員

として、広報誌の制作など

社内向けの情報発信などに汗を流す。「最初は長く思った勤務時間が、今はあつと

いう間に感じるようになり

## 浦和レッズレディース選手 柳澤紗希さん

幼いころからボールが好きで、父親もサッカー経験者。小学4年生で、地元の東京・調布市の中学校の女子チームに入ると、男子チームも掛け持ちするようになつた。男子チームでも、「ドリブルヒュートが楽

日本が優勝したのは、浦和レッズレディースのユースチームも掛け持ちするようになつた。男子チームでも、の選手が入院していて、熊谷紗希選手や山郷のぞみ選手が、皇后杯で日本が優勝したのは、浦和レッズレディースのユースチームも掛け持ちするようになつた。男子チームでも、「ドリブルヒュートが楽

## “古巣”での試合出場目指す

しめて、ボールへの執着心で、とにかく前に出て点を取っていた」。

中学を控え、「お試し感覚」でチームメイトと女子

の対戦に手応手など、いろんな代表選手に会えたのが思い出だ。

高校生になるとMFに定めを感じ、「古巣」に戻った。

目標は「まずは試合に出ること」。往復2時間超の移動時間に勉強しながら、ユース時代を乗り切った時間の有効活用術を駆使し、「自分といつたらこれ」というハビリ期間は「経験した人プレー」を目指す。（菜）